菅茶山略年表

西 暦	元 号	年齢	で き ご と
1748	延享5	1	2月2日菅波禰平・半の長男に生まれる
1766	明和3	19	京都に遊学し市川某に古文辞学を学ぶが、後に那波魯堂に朱子学を、和田泰純に古医方を学ぶ
1771	明和8	24	西山拙斎が初めて茶山を訪ね、ともに三原に観梅に行く
1773	安永2	26	初めて大阪の「青山社」に頼春水を訪ねる
1775	安永4	28	私塾を開く 藤井暮庵が入門する
1780	安永9	33	遊学中に大阪の「混沌社」社友と交わる
1784	天明4	37	門田氏宣と結婚する
1786	天明6	39	福山藩校弘道館教授に迎えられたが断る 天明百姓一揆(~1787)
1788	天明8	41	藤井暮庵と広島・宮島に遊び頼杏坪・頼山陽と出会う 『遊芸記』が成る 『冬日影』が成る
1792	寛政4	45	福山藩儒医として5人扶持を給される 塾経営に専念するため家業を弟恥庵に譲る この頃、「黄葉夕陽村舎」「閭塾」が現在の場所に開設される
1794	寛政6	47	『北上歴』の旅に出る 父禰平の『三月庵集』を編集する
1797	寛政9	50	「黄葉夕陽村舎」「閭塾」が福山藩校の郷校となり、「廉塾」「神辺学問所」と称する
1800	寛政12	53	弟恥庵が京都で病死する
1801	享和元	54	福山藩儒官となり藩校弘道館で講釈を始める
1804	文化元	57	福山藩阿部正精の命で江戸に赴く
1805	文化2	58	阿部正精に『福山志料』編纂を命じられる
1807	文化4	60	神辺大火で茶山宅は全焼、塾はまぬがれる
1808	文化5	61	門田朴斎が入門する
1809	文化6	62	頼山陽が廉塾の都講(塾頭)になる
1810	文化7	63	後に廉塾の後継者になる甥の子、菅三が生まれる
1811	文化8	64	頼山陽が廉塾を去る
1812	文化9	65	『黄葉夕陽村舎詩』前編が刊行される
1813	文化10	66	『三原梅見之記』が成る 北條霞亭が廉塾の都講になる
1814	文化11	67	阿部正精の命で江戸に赴く
1818	文政元	71	大和、吉野、京都に遊ぶ 『大和行日記』が成る
1820	文政3	73	門田朴斎を養子とする 『室町誌』をまとめる
1823	文政6	76	『黄葉夕陽村舎詩』後編が刊行される
1826	文政9	79	妻の宣が歿する
1827	文政10	80	門田朴斎を離縁し菅三を養子とする 8月13日歿する 川北村網付谷に葬られる
1832	天保3		『黄葉夕陽村舎詩』遺稿が刊行される